



謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

新しい年が、皆様にとって幸多き輝かしい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

JAきたそらちでは、ホームページとFacebookで、魅力満載の情報を発信中です！ ぜひ、ご覧ください！



～目 次～

- ◆ 新年のご挨拶 ————— 2,3
- ◆ 第68回 全道JA青年部大会 ————— 6
- ◆ 雨竜寿園へもち米贈呈
&もちつき会開催 ————— 12
- ◆ 今月の表紙 ————— 14



新年のご挨拶

きたそらち農業協同組合

代表理事組合長

柏 木 孝 文

新年、明けましておめでとうございます。組合員の皆様に於かれましては、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より当組合の事業運営に対し、特段のご理解とご協力賜り心より厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、幌加内を除く地域の融雪期は概ね平年並みとなり、春先は高温多照の好天に恵まれ、一昨年の不作分を取り戻す豊作を予感させる上々な滑り出しとなりました。しかし、水稻の播種期に季節外れの真夏日や播種後の極端な雨不足による畑作物の蒔き直し、8月上旬には河川の増水による水田と畑

の一部冠水など、総じて穏やかな気候においても突発的な気象変動の対応に苦慮されたことと思います。本道においては、本州のような甚大な気象災害こそ発生しませんでした。過去の経験をとることもなく、気象変動に強い農業インフラ整備を今後も継続的に進めて行かなければならないと考えます。

さて、昨年の当農協管内の農作物の作柄は、基幹作物の水稻は高温多照により生育は順調に進み、育苗期の高温管理に苦労した時もありましたが、初期生育を含め出穂期までは近年に近い旺盛な生育経過となりました。しかし、8月の低温日照不足と雨天、そして旺

盛な生育が登熟に影響を及ぼし、青未熟粒や青死米を多く発生させ技術的に課題を残した結果となりました。作況指数は北空知「105」と豊作ですが、実感としては平年作の作柄感が強い収量となりました。また、品質についてはタンパク値こそ平年並みですが、食味に影響するアミロースの値が平年よりも低く、粘りある美味しいお米を生産できたことはひとえに天候に恵まれた結果と言えます。

また、畑作物に関しては水稻同様に春作業までは順調でしたが、生育前半の極端な雨不足が様々な影響を与えました。秋小麦については、干ばつ傾向の中でも茎数・穂数とも平年を上回り、収量が期待されました

が、雨不足が一穂粒数や千粒重に影響し、収量は平年をやや上回る程度に留まりました。しかし、細麦傾向のなかにおいても広域小麦・大豆施設のメリットを発揮し、全量一等麦とAランクの品質を確保することが出来ました。大豆、そばについては、干ばつの影響で蒔き直しや出芽不良による生育遅延もありましたが、どちらも平年作を確保し、畑作物は総じて平年並みの収量と品質となりました。

一方、青果物においては春先からの好天と高温により作物の生育が全て前倒しとなり、果実類は全道各産地の作柄が大玉傾向となりましたが、出荷時期が本州産と重なり、品質と収穫量は平年を上回ったものの厳

しい販売を強いられました。花きについても、生育の前進で採花時期がずれ込み府県産との出荷競争により相場は低迷しましたが、販売量が伸びたことにより北空知広域農協連の販売額は9年連続の全道一位、当農協においても発足以来最高の販売額となりました。

青果・花きについては、ハウス施設の増設と更新に係る生産振興策を地域行政と一体となり取り進めて参りましたが、その成果が徐々に現れはじめており、今後とも引き続き生産振興を図って行きたいと考えます。

また、畜産については素牛価格の高騰に終止符が打たれたものの依然導入コストは高く、更に過去に例がない貿易自由化が進み、畜

肉輸入の増加による価格下落等の影響が大変危惧される状況にあります。今後は畜産経営の安定化に向けた国の施策を十分活用しつつ、JAとしても生産基盤確保に向けた取り組みの強化を進めていく考えです。

組合員の皆様には厳しい経営環境と気象条件のなか、平年作以上の農畜産物の出荷を頂きましたことに、心より経緯と感謝を申し上げます。

さて、通商政策に目を向けますと、一昨年末に発効となり2年目に入った「TPP11」、昨年2月に発効となった「日欧EPA」、そして本年1月1日より発効となった「日米貿易協定」の3つの経済連携を加えると、日本の「自由貿易」率（EPAカバー率）は50%の大幅を超え、世界においても高い水準に達しました。「日米貿易協定」は、日本の農林水産物の生産額が約600から1100億円減少すると試算され、北海道の農畜産物も年間235から3

71億円減少すると公表されています。このようななか、政府の国内対策の効果で生産量も所得も維持されるという前提がありますが、これは非常に甘い考えと言えます。カロリーベースの食料自給率が一作年の不作により過去最低の37%へと低下し、国が掲げる45%の目標すら一度も達成していないなか、更に高い貿易自由化を追い求めることは国民の生命保障を他国に委ねているのと同様で、国の大本である農業を軽んじるようなことは決してあってはならないと思うところです。

一方、国内農政では、産地自らの判断に基づく需要に応じた米生産も20年産で3年目となります。18年、19年と2年続けて全国作況指数が「100」を下回り、需給緩和は回避しています。結果的には天候不順などの不確定要素に救われた面が否めない状況です。また、米の需要量減少ペースは年間10万トンと推測され、このまま需要が減り続ければ10年で北海道と新潟県の

合計量に相当する生産が要らなくなると言われています。米の需給と価格の安定は国の責務、所得増大は農家への政府の約束であり、需要に応じた生産が軌道に乗らない限り、稲作農家の所得増加は実現しません。単年の需給均衡に追われるのではなく、長期的な需要量や生産量の展望をもった米政策が切に望まれ、このことが本年見直しされる「新たな食料・農業・農村基本計画」にしっかりと反映されることを期待するところです。

さて、昨年11月に「JA北海道大会実践フォーラム」が開催されました。このフォーラムは、一昨年の第29回JA北海道大会の決議事項について、道内JAの実践事例や課題をグループ全体で共有し、実践状況を内外に発信することを目的に開催しました。その内容は、「農業所得の増大」と「多様な担い手の確保・育成」、「次代につなげる協同組合の価値と実践」について事例

発表や基調講演が行われました。スマート農業やGAPの推進、蜜苗・疎植等の新たな技術による作業効率化により時間的ゆとりを生み出すことで経営面積の拡大と所得増大を実現し、持続可能な農業を確立して行きたいと考えます。引き続き組合員の皆様とJAグループが一体となり目標達成に向け進んで参ります。

結びとなりますが、本年は、第7次農業振興計画・農協経営計画の策定年であり、取組み初年度目となります。「JAきたそらち変革ビジョン2030」では10年後のJAのめざす組織体制、そして基幹作物の水稲を中心とした地域農業ビジョンを組合員の皆様と共に創り（共創）、実現させて行きたいと考えております。

わたしたちJAきたそらちは「農業振興を通じて地域社会へ貢献」することを存在意義とし、「日本一の米産地になる」ことをビジョンとして掲げています。そして、総合農協として事

業連携による協同組合本来の強みを発揮し、組合員の皆様を生涯通してサポートできる健全なJA経営の確立を組合員の皆様と共に役員が一体となり進めていく所存です。

本年こそ、天候に恵まれ、稔り多き年となるとともに、組合員の皆様とご家族にとりましてご健勝で幸多き年となりますことをご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。





令和2年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔 章

組合員並びにJA役職員の皆様には、輝かしい令和2年の新年を迎えられたものと心より、お慶び申し上げます。

皆様におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年の北海道農業は、春先に道内各地において強風に見舞われ、広範囲にわたり農業被害が発生し、一部蒔き直しが必要になった地区も発生しま

した。

その後は干ばつ等もありましたが、天候は順調に推移したことで収穫も進みました。お米の作況指数が104の「やや良」、小麦、てん菜は平年作以上となる結果となり、生乳は良質な飼料作物確保による安定的な生産が見込まれ、作目によって違いはありますが概ね良い出来秋を迎えることができたと感じております。

しかしながら、全国的には8月末に発生した九州北部豪雨や、9月、10月と東日本を中心に大きな被害をもたらした台風

15号、19号など、大規模な災害が発生した年となりました。

北海道においても一昨年、胆振東部地震により多くの支援を頂いた経過にあり、JAグループ北海道として全国連と協力し積極的に支援をして参りたいと考えております。

国際貿易交渉については、昨年2月1日に日EU・EPAが発効となり、日米貿易協定は昨年10月に署名がなされ、国会審議を経て12月4日に承認案が可決されました。日米貿易協定の影響試算で

は、1、100億円の生産減少額のうち3、4割が北海道への影響とみられており、JAグループ北海道として北海道農業への影響を最小限に食い止める対策や、生産者の不安を払拭することを昨年より国等に対して要請を行っております。今後とも動向を注視し、北海道農業が犠牲とならないよう毅然とした対応を求めてまいります。

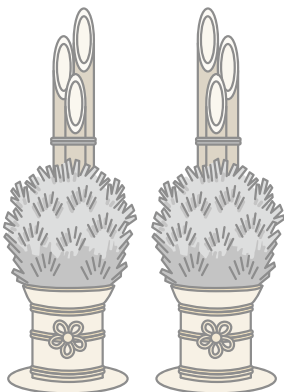
さて、JAグループ北海道は、昨年11月12日に第29回JA北海道大会決議事項の実践事例や現状の課題を、JAグループ全体で共有すること、内外に実践状況を発信すること目的として、JA北海道大会実践フォーラムを開催したところです。

引き続き、組合員・JA・連合会・中央会が一体となり、大会決議事項の実践に取り組み、基本

目標の達成につなげてまいります。

結びになりますが、今年の干支は庚子（かのえね）です。子には、「ふえる・しげる」の意味があり、種子の中に新しい生命がぎざし始める状態だといわれています。

今年はこの庚子年にあやかり、農業にとって輝かしい未来が芽生く年となること、併せて北海道農業並びに組合員、役職員の皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。





年頭のご挨拶

JAきたそらち青年部
部長 田中 龍貴

新年明けましておめでとうございます。

日頃より当青年部に対し、各関係団体並びに組合員の皆様には特段のご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、水稲に関しましては、春先から好天が続き順調な生育を見せていました。結果として北

空知地域の作況指数は105と豊作を示す値となりましたが、登熟期の低温による穂揃

い不良などにより、未熟粒が増え蛋白値も思うように下がらず、手放しに喜べる結果とはなりませんでした。また畑作に関しましては、干ばつ傾向により収量不足が心配されましたが、小麦・大豆・そばに関しては昨年を上回る結果

が出た地区もありました。

国際情勢を振り返りますと、自由貿易協定や経済連携協定の締結が増加するなど、今後も市場開放の動きは進むものとみられ動向を注視していく必要があります。そのような大きなうねりの中、農政活動の第一歩としてJA役職員と意見交換会を開催しJA運営に対する意見を述べました。短い時間の中での意見交換ではありましたが、我々の思いを伝える、まさに農政運動の一つであったと思います。また、こうした活動に積極的に参加し、我々の思いを訴えていかなければと思います。

農業技術に目を向けますと、ICTや省力化といった新たな技術が大きく発展した年でもあったように感じます。当JAにもGPS基地局が設置され来年度以降も発展をしていくことでしょう。高齢化に伴う作付面積の増加を見据えた新しい営農技術について、青年部としても積極的に学ばなければと思うところです。

PR活動を振り返りますと、2月にスノーメッセJを雨竜町道の駅に作成し、「農業はチャレンジ」という私たちの営農への姿勢をPRしました。また、札幌市内のアークスグループ2店舗での販促事業を開催。さ

らに、女性部の協力のもと、くるるの杜でJAきたそらち農産物フェアを開催しました。女性部による試食の提供により客足は良く、農産物を広く消費者へPRすることができ充実したものでした。

後継者不足に伴い、地域への負担が増す中ではあります。私たちが青年部の若い力により、地域農業を盛り上げる活動を展開していきたいと思っています。

今年一年間、各関係団体並びに組合員の皆様からの、一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶と致します。



年頭のご挨拶

JAきたそらち女性部
部長 本橋 和枝

新年あけましておめでとうございます。

日頃よりJA女性部活動に対し、組合員の皆様並びに各関係機関の皆様にはご理解とご協力を賜り心より感謝と御礼を申し上げます。昨年を振り返りますと日

本各地では台風や地震など自然災害の多い一年でした。幸いにも北海道では大きな被害が無かったものの、被害に遭われた地域の方々は心よりお見舞い申し上げます。

さて、女性部活動を振返

ければなりません。

昨年は、女性部と常勤役員との懇談会を開催し、今後の女性部活動について協議を致しました。その際、女性部活動を継続させるためには、女性部員の「やってみよう」の声を傾け、その想いを常勤役員の皆さんに伝え、私たち自身が行動に移さなければならぬことを知りました。そのためには、女性部員皆様の声を聞かせて下さい。他の女性部員でも事務局でも構いません。声に出すことによりその想い

はJAに届くはず。女性部員一丸となってより良い女性部活動を継続してまいります。

末筆ではございますが、近年の異常気象や地殻変動などは生活に大きな影響を及ぼし、農作物が無事収穫できることが当たり前ではないということを私たちに伝えてくれるようです。今年こそは災害などが起きない静かな一年になる事をご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

・ 第39回 空知管内JA青年部大会 ・

11月21日、岩見沢市で「青き輪から紡ぎ ひらめきから挑戦へ」を大会スローガンに、第39回空知管内JA青年部大会が開催され、空知管内からJA青年部員約100名（当JA青年部より9名）が参加した。

開会挨拶では、JA空知青年部連合会 谷村拓哉会長理事が「JA青年部活動実績発表大会に出場する盟友の方は全道大会を目指し精一杯頑張ってほしい」と呼びかけ、その後すぐに同発表大会が行われた。当JA青年部からは大井賢太郎氏（一已支部）が代表として出場し「我が青年部の軌跡」を発表した。大井氏は青年部一已支部の成り立ちや活動について丁寧に発表し優秀賞に選ばれたが、最優秀賞には「学んできた味、伝えたい味」を発表したJAびばい青年部の藤原友和氏が選ばれた。

大会終了後の懇親会では、普段交流の少ない他JAの青年部員と親睦を深め、地域を越えて結束を固めた。



谷村会長による開会挨拶



JA青年部活動実績発表をする大井氏

【営農企画課 石野】

第68回 全道JA青年部大会

農業
振興部

12月5日から6日にかけて、札幌市で「Exciting innovation ～猪突農進～」を大会スローガンに第68回全道JA青年部大会が開催され、全道から約840名のJA青年部員（当JA青年部より5名）が参加した。

JA青年部活動実績発表大会では、「食育難民」と題し地域や企業と連携し村民の健康意識を高める食育教育活動について発表したJA中札内村青年部が最優秀賞に選ばれた。またJA青年の主張大会では、JAびばい青年部の本山忠寛氏が、負債を抱えながらも力強く営農する父の背中を見て就農し、さらに自身の息子にもこの想いをつなげられるような力強い農業をしたいという目標について「親父の背中」と題して発表し、最優秀賞に選ばれた。

基調講演では（株）セコマの丸谷智保社長より、規格外農産物に注目し加工・販売することで販売力の強化、また地域農業の振興を担っていることについて講演が行われた。

閉会式では、青年部が同じ方向性で将来像を共有し、国民に安心安全な農畜産物を提供しながら次世代に引き継ぐことを誓い合った。

【営農企画課 石野】



開会挨拶をするJA道青協の村田辰徳会長



閉会挨拶をするJA道青協の神尾誠副会長（一已支部）

JAきたそらち女性部 「さくらカレッジ」開催

女性部では毎年、“きらきら輝ける素敵な女性”を目指し『さくらカレッジ』を開催している。

今回は、12月16日に「正しい足裏バランスについて」と題した講習会を営農センターで開催し、部員32名が参加した。札幌月寒中央整骨院 歩行アドバイザーの山本晃司氏を講師に迎え、足の構造と足、膝、腰が痛くなるメカニズムを学んだ。山本氏は、「最近は平らな場所を歩き過ぎて足の指が上手く使えず小学生でも腰や膝が痛い子供、歩き方、走り方が悪い子供が増えている」と説明し、参加した部員から「自分の孫も当てはまっているのかも」などという声も聞こえた。

また、足への痛み改善や姿勢矯正を促すサポーターの試着もあり、試着した部員は歩き方の変化に驚いていた。



【営農企画課 墓田】

農業
振興部

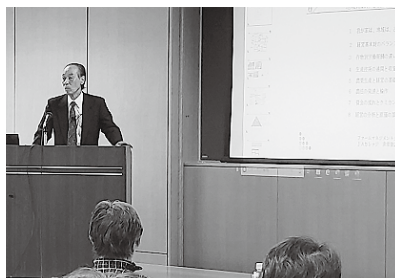
JA空知女性協議会 アグリセミナー開催

12月6日、岩見沢市空知農業会館にて「JA空知女性協議会アグリセミナー」が開催され、空知管内から118名、当JAから23名の女性部員が参加した。

同セミナーは、JA全国女性組織協議会が掲げるJA女性組織3か年計画「JA女性 地域で輝け50万パワー☆」を実践する中で、農業を取り巻く情勢について学習し、食と農業経営を支える女性農業者として、地域での仲間づくりを行い、家庭・地域で何をできるかを考え活躍を促進するために昨年度より開催されている。

午前の部では、JAカレッジの非常勤講師を渡邊和義氏が「地域における農業経営の課題と解決策」と題し、農業経営や農業簿記などを初心者でも分かるように説明し、また経営収支バランスや作物別労働報酬の違い、クミカンの見方などを時に笑いを交えながら講演した。午後の部では、HBCウェザーセンター所属の気象予報士 森山知洋氏が「異常気象にどう備える？～天気のみかた・使い方～」と題し、近年の異常気象の発生原因や被害状況、被害を最小限に抑えるための備えを、被害状況を報道したテレビ映像や気圧配置などを用いて分かりやすく説明した。

参加した当JAの女性部員は、「渡邊氏の講演でクミカンから自分の経営状況を把握することが一番大切であることを知り、農業経営の面白さをさらに学ぶことができた」と感想を話す。



渡邊氏による講演



森山氏による講演

【営農企画課 墓田】

「北育ち元気塾」 第7回研修会(空知青年農業者会議)

12月4日、北育ち元気塾の第7回研修会が開催され、空知総合振興局にて行われた「空知青年農業者会議」に塾生4名が参加した。同大会は空知4Hクラブ連絡協議会が主催するもので、4Hクラブ員をはじめ空知管内の若手農業者を中心に総勢87名が参加した。

アグリメッセージ発表では、同塾から竹林司氏(北竜町)と蔵根将洋氏(沼田町)が代表として出場し、「農家になるのはもったいない?」を発表した竹林氏が見事最優秀賞に選ばれ、令和2年1月28日～29日に開催される全道青年農業者会議に出場する。プロジェクト発表では、辰田靖明氏(岩見沢市4Hクラブ)「親指から始める直接販売」が最優秀賞を受賞した。

会議終了後は交流会が開かれ、普段交流のない4Hクラブ員とクラブ活動や農業技術・知識について情報交換を行った。

また12月6日、竹林氏は当JA 柏木孝文組合長を訪問し、最優秀賞受賞の報告と全道青年農業者会議への意気込みを話し、柏木組合長からは激励の言葉を受けた。

【営農企画課 石野】



アグリメッセージを発表する竹林氏



柏木組合長と竹林氏

農業
振興部



新

風



☆目指す農業
2年前に岐阜県から妻の憧れであった北海道に移住して参りました。
深川未来ファームでのアルバイトを通じて、研修先である(株)三谷農園を紹介していただきました。
前職は、航空機の部品や組立ての検査をしており、物づくりという部分では農業に似ていると感じておりましたが、作物の成長・天候に合わせた管理の難しさに魅力を感じながら研修を進めております。
農業経験が浅く、これから学ぶことは沢山あると思いますが、地域に貢献できる農業者になりたいと思っておりますので、今後ともご指導よろしくお願い致します。

氏名	年齢	出身地	趣味	研修先
高木 大輔 さん	36歳	岐阜県	スポーツ観戦(野球)	音江地区 (株)三谷農園 代表取締役 三谷 好美 さん

新規就農者



【新規就農希望者受入農家・新規就農希望者募集】

JAきたそらちでは、新規就農希望者を募集しております。興味がある方は、気軽に下記にお問い合わせ願います。

- ◇ 問い合わせ先：農業振興部 営農企画課【TEL：0164-26-0134】
- ◇ ホームページ：<http://www.ja-kitasorachi.com/farmer/index.html>
- ◇ 新・農業人フェア：日 時 令和2年1月25日(土)
場 所 池袋サンシャインシティ 展示ホールA
〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-1-1
出展地区 深川市・北竜町

納内 年金友の会

温泉湯治を開催

11月19日から22日の4日間、納内年金友の会（撫養潔会長、会員342名）は層雲峡の層雲閣グランドホテルで温泉湯治を開催し、会員22名が参加した。

会員は、ホテル内の多目的ホールにてパークゴルフや卓球、憩い部屋にて趣味のカラオケやマージャン等を楽しんだ。また、温泉にゆっくり浸かり、日頃の疲れを癒した。宴会では、ビンゴ大会や各部屋から選抜された方々によるカラオケ大会で盛り上がった。会員同士が親睦を深める機会となり、有意義な温泉湯治となった。

【金融共済納内支所 平山】



金融
共済部



多度志年金友の会

温泉湯治を実施

11月25日から28日までの4日間、多度志年金友の会（小野寺栄会長、会員240名）は層雲峡の層雲閣グランドホテルで温泉湯治を実施し、会員15名が参加した。

会員は趣味のカラオケや麻雀、卓球などを楽しみ、温泉で1年の疲れをゆっくり癒した。また最終日には、深川市議会議員の辻本智氏を交えた懇親会が開かれ、親睦を深めあう有意義な時間となった。

【金融共済多度志支所 茂泉】



食品加工体験で食育 北光保育園の園児が味噌づくり

11月20日、イチヤン加工施設で深川市の北光保育園の園児18名が味噌づくりを体験した。この取り組みは地元で行う食育活動の一環として毎年行われている。

女性部のイチヤン販売グループ（平野あい子会長、会員7名）が指導にあたり、園児たちは1時間ほどかけて味噌づくりを楽しんだ。「楽しい!」「もっとやりたい!」と話しながら、煮て潰した大豆と塩を混ぜ団子状にする作業などを手伝った。

体験後に園児からお礼の言葉をもらった平野会長は、「お疲れ様でした。大変助かりました。ありがとうございます」と声を掛け、昨年仕込んだお手製味噌をお土産に手渡した。



【深川支所 藤井】



深川支所

多度志地区営農組合役員と理事による 視察研修を実施

11月19日～21日の3日間、多度志地区の営農組合役員や遠藤良明同地区代表理事、辻本吉和同地区理事など計9名が十勝・オホーツク方面で視察研修を行った。

十勝方面の帯広市では、ドローン総合事業を展開する「AIRSTAGE 帯広店」を訪問し、室内用最小ドローン「Tello機」や航空法の規制がかからないドローン「MAVIC MINI機」など多種多様なドローンの説明を受けた。農薬散布用ドローン「MG-1機」の説明では、送信機に圃場のGPS情報をあらかじめ登録しておく、薬剤10Lを約10分間に4M幅で自動散布することが可能である点や、バッテリーが無くなると自動で戻り新たなバッテリーを乗せると最終作業地点から再び作業を始める点などを聞き、「今後の防除作業の中でドローンの導入に可能性を感じる」と話す参加者もいた。

オホーツク方面の大空町では、オホーツク管内14農協が団結し建設した穀類の乾燥調製貯蔵施設「オホーツクビーンズファクトリー」を訪問し、荷受ホッパーから比重選別機・色彩選別機・手選別室・金属検出機や自動包装された紙袋が保管されている倉庫までの案内を受けた。



「AIRSTAGE 帯広店」にて



「オホーツクビーンズファクトリー」にて

また視察の他に、網走市のオホーツク流水館や網走刑務所などで観光も行い、とても有意義な研修となった。

【深川支所 田中】

女性部深川支部 料理講習会



12月10日、深川市中央公民館にて、女性部深川支部（吉田祥子支部長）が料理講習会を開催し、部員30名が参加した。今回は、北海道が開催する「生産者がつくる愛食料理コンテスト」の受賞経験をもつ同部北竜支部の永井美保子さんを講師に迎えた。

永井さん指導のもと、最初に料理の要となる塩麴を米粉の加工に優れた高アミロース米である「北瑞穂」の麴と塩を混ぜて作った。出来上がった塩麴は発酵に1～2週間かかるため、今回は永井さんが持参した塩麴を使い、黒千石大豆の炊きこみご飯や塩麴のから揚げ、米粉のクリームシチューなど計5品の料理を和気あいあいと調理した。

参加した部員は、「鶏肉が柔らかくて美味しいね」「クリームシチューは小麦粉を使うよりも簡単に出来るね」「出来上がった塩麴で何をつくらうか」と話しながら試食タイムを楽しんだ。

【深川支所 田中】



深川支所

女性部イチヤン支部 農閑期学習会を開催

12月5日、女性部イチヤン支部（平野あい子支部長）の農閑期学習会が行われ、部員8名が参加した。

昨年の学習会に引き続き、今年も深川市のネイルサロン『Muu.Nail』から荒井睦希さんを講師に招き、ハンドケアやマニキュアの塗り方を学んだ。本格的な冬の到来に向けて、乾燥や手荒れを防ぐ効果的なハンドクリームやオイルの塗り方を聞いた部員は、実際にケアした爪に各自好きな色のマニキュアを選び、荒井さんの助けを貰いながらも綺麗に塗っていた。また昨年も参加した部員は、「昨年よりマニキュアの塗り方が上手になっている」と荒井さんから賞賛の言葉を受けていた。

さらに今年は荒井さんの紹介で、旭川市の『Life on シ～ナースがケアする美容と美腸整体サロン～』から山口あづささんと千葉夕桂さんの2人を講師に迎え、「おなかはいのちの畑」、「継続したケアが大事!」と説明を受けながら、腹部のマッサージで身体の不調部分を知る方法や自宅でのセルフケアの方法などを学んだ。また『オリーブオイルアドバイザー』の資格を持つ千葉さんから市販品と良質なオリーブオイルの違いや効果を聞き、いかに良質なオリーブオイルを摂取することが身体にとって良いか実際に匂いや味の違いを比べながら学んだ。

今回も講師と部員が和気あいあいと楽しんだ有意義な学習会となった。

【深川支所 田中】



女性部多度志支部 農閑期講習でアクセサリー作り

深川支所

12月3日、女性部多度志支部（竹内寿子支部長）が農閑期講習としてアクセサリー作りを行い、部員33名が参加した。

旭川市 Silver&雑貨工房「Kaede」の伊藤美智子氏を講師に迎え、部員は「UVレジンアクセサリー班」と「天然石ブレスレット班」に分かれ、それぞれアクセサリー作りに挑戦した。

「UVレジン班」は、フレームパーツと下地の色を決め、そこにUVレジン液を流し込み、お好みの装飾パーツを乗せ、UVライトで固めてからネックレスやストラップに加工した。

「ブレスレット班」は、天然石の持つ効果を考えつつ、好きな石を選び、アクラメ編みを練習してから実際に編み始めました。

両班とも慣れない作業に悪戦苦闘しながらも協力し合い、世界に1つだけの作品を仕上げた。

【深川支所 田中】



完成したUVレジンのネックレス



完成した天然石のブレスレット

雨竜支所

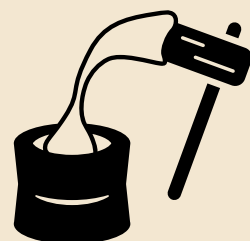
雨竜寿園へもち米贈呈 &もちつき会開催

雨竜支所

12月11日、雨竜支所から雨竜町の「特別養護老人ホーム 雨竜寿園」へ北竜産もち米「風の子もち」の贈呈が行われた。同支所では、生産者が丹精込めて栽培した農産物を地元で味わってほしいと、夏は暑寒メロン、冬はもち米を贈呈している。遠藤清明雨竜地区代表理事が訪問し、同施設の道下義夫施設長に手渡した。

また、12月19日には、贈呈したもち米を使った「もちつき会」が開催され、餅をつく「せーの！」の掛け声に合わせて、同施設の利用者と職員で「よいしょ！」と合いの手を入れながら、会場全体で餅つきを楽しんだ。

【金融共済雨竜支所 長谷川】





女性部北竜支部

料理講習会



12月6日、女性部北竜支部（澤田貴子支部長）は同部員の阿部春美さんを講師に料理講習会を開催し、15名が参加した。

参加した部員は4班に分かれ、白菜と生姜のそばろあんスープ・枝豆とベーコンの豆腐揚げ・大根ギョーザ・お好み焼き風おむすびなど合計7品を調理した。

料理の完成後は試食の時間が設けられ、特に餃子の皮を使わず大根で包んだ餃子はとてもヘルシーで大根の食感も楽しめると部員の中で好評だった。

同講習会では、調理から試食の時間を通して部員同士の会話が弾み、交流を深める楽しい時間となった。

【北竜支所 長谷川】



合格おめでとうございます

資格認定試験に次の職員が合格いたしました。



【内部監査士】

篠永 雄一 中原 淳

【北海道農協職員資格認定試験】

初 級

清水真智子	安藤 理沙	中村 元
林 綾華	平原 和泉	伊藤 真紀
打譯 將樹	大井 直幸	



農業教育振興基金として 請川公一さん家族より寄付

12月11日、当JA深川支所メム地区の請川恵美子さんが長男の博基さんと営農センターを訪れ、柏木組合長に農業教育振興基金として寄付金が手渡された。

請川恵美子さんは、夫である請川公一さんが12月4日に逝去され、生前、当JAにお世話になったお礼として寄付されたもので、「JA事業に役立てて欲しい」と述べられた。

受け取った柏木組合長は、「大変なお心尽くしの寄付金を頂き、ありがとうございます。今後の農業振興に活用させていただきます」と感謝の言葉を申し上げた。



請川公一さんは、「深川市稲作経営研究会」代表顧問、「きたそらち和牛改良組合」組合長や同組合会長などを歴任され、長年にわたり農畜産物の生産技術向上に尽力された。

また、深川市で初めて北海道指導農業士に認定され農業後継者育成にも尽力され、平成22年度には深川市功労者に表彰され地域農業の振興と発展に寄与された方でした。

【営農企画課 丸岡】

今月号の表紙

～本年も宜しくお願い致します!～



【後列左から】

麻生 浩伸 金融共済幌加内支所
一戸 栄治 農業振興部 営農企画課
鈴木 育代 総務部 総務経理課
小島 和也 深川支所 深川米穀施設課
富田 貴浩 北空知広域農協連

【前列左から】

中村 元 金融共済多度志支所
佐々木佑香 金融共済深川支所
小石川 正 総務部 総務経理課

今年の干支にちなみ、子年の昭和59年・平成8年生まれの職員8名に出演いただきました。
撮影へのご協力、ありがとうございました！

役員退任のお知らせ

幌加内支所 伊藤孝司理事が一身上の都合により、令和元年11月25日付をもって退任されました。

なお、役員退任に伴う補欠選任は、令和2年4月の第20回通常総代会において実施する予定としております。

JA職員 農作業実習報告 第3回

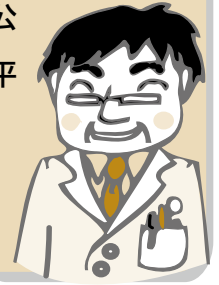
先月号に引き続き、若年職員（採用2～5年目）を対象としたJA非常勤役員宅における農作業実習につきまして、各実習生の感想や今後の抱負をご報告させていただきます。

①実習先	②実習期間	③作業内容	④感想
経済部 資材課 明月 楓花 (平成30年4月入組)			
①深川支所一已地区 赤川 光男 代表監事宅		②令和元年8月1日～8月6日	
③花き選花作業、花き出荷用段ボール組み立て作業			
④選花作業では、何十本も積み上げられた花を束にしていく際に茎や葉が絡まり、折れてしまうことがあったため、注意しながら手早く作業を行うことが大変でした。 また出荷用ダンボールの組み立て作業では、いかに効率よく組み立てられるか考えながら作業を進めるということが難しく感じました。 実際に生産現場で農作業することにより、資材店舗で販売している資材についての様々な知識を得ることができました。また、組合員の方から、資材の配送についての意見や店舗に取り扱って欲しい資材など、貴重なお話もたくさん聞くことができ、実習に行っても良かったと思いました。 普段の業務では外に出ることがないため、組合員の方々がいつも行っている作業を実際に体験させていただくことで、現場での苦労や農作業のやりがいなど、学べるものがたくさんありました。実習全体を通して様々な面でプラスになり、とても良い経験となりました。			
			
経済部 燃料課 深川給油所 山田 明日希 (平成30年4月入組)			
①深川支所一已地区 赤川 光男 代表監事宅		②令和元年8月1日～8月6日	
③花き選花作業、花き出荷用段ボール組み立て作業			
④実習先に伺って、まず花の量に驚かされました。出荷用段ボールを組み立てる作業では、テープをきれいに貼ることに苦戦し、また組み立てたものを平行に高く積み上げていくことが大変でした。実習期間中は気温の高い日が続いたため、とても体力を奪われたように感じました。 普段は事務所にいて外勤する機会がないため、実習を通して、組合員の方々とコミュニケーションを取るきっかけが出来たので、とても嬉しく思いました。 今回の実習で初めて農作業にふれ、また立ち仕事で下を見ながらの作業が多かったため、足腰や肩など体への負担を感じましたが、休憩も十分にいただき楽しく実習ができました。			
			

健康百科

線維筋痛症

たかはし内科消化器内科 院長 高橋 公平



線維筋痛症とは慢性疼痛と様々な随伴症状を特徴とする原因不明の疾患です。原発性のものとりウマチ性疾患に続発する二次性のものに分けられます。40歳から50歳の女性に好発し、わが国では200万人以上の患者がいると考えられています。発症要因は、ウイルス感染、外傷、手術などの外的要因と離別や経済的困窮などの内的要因（心理的要因）に大別されます。

症状については3か月以上続く全身の筋・骨格系の慢性疼痛とこわばりを主症状とし、強度の疲労感とともに、不眠、うつなどの精神症状や、過敏性腸症候群、胃食道逆流症などの自律神経系症状を随伴します。

線維筋痛症の病態は正確には不明ですが、脳機能異常による下行性痛覚抑制系（脳に向かってくる痛み刺激を抑える機能）の破綻によるものと考えられています。関節炎や筋炎ではないため、画像検査、血液検査では異常はみられません。

治療は薬物療法としては神経障害性疼痛治療薬、鎮痛補助薬、抗うつ薬、オピオイド（麻薬性鎮痛薬）があり、非薬物療法としてはストレッチや温水プール療法などの運動療法の他、認知行動療法や理学療法もあります。全身のあちこちが痛いのが長期間つづき、原因がよくわからないときにはこの線維筋痛症も考えなければなりません。

転載不可

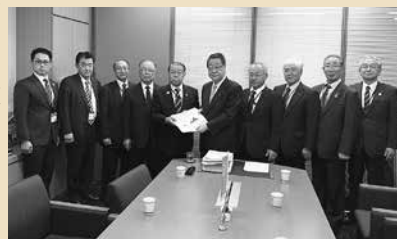
JA グループ通信

JA 北海道中央会



JAグループ北海道は11月14日に東京都にて、「経営所得安定対策の単価改定」と「総合的なTPP等関連政策大綱の見直し」に向け、道内与党国会議員や農林幹部に対する中央要請、並びに農林水産省と意見交換を実施しました。経営所得安定対策では3年に一度の単価改定の見直し議論が行われていることから、輪作バランスや畑作経営に対する影響を考慮し、単価が大きく変動しない単価設定とすることや、各作物の生産振興対策などを求めました。TPP等関連政策大綱の改訂にあたっては、相次ぐ大型貿易協定の発行による、中長期的な北海道農業に与える影響が大きいと、各作物別の需給調整・価格安定対策の充実強化、生産基盤の強化に向けた対策を求めました。

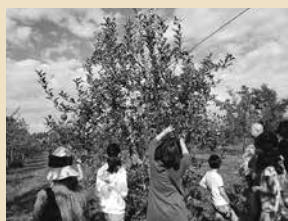
今後も、北海道の農家、組合員が安心して営農できるよう取り組んで参ります。



JA 北海道信連



収穫体験や調理体験等の独自イベント、「旬食カレッジ」は今年で4年目となり、今回は一般の女性の方々を対象に、8月、江別市で開催しました。また、全道各JAの協力を受け、今年度から新たに「親子で学ぼう! あぐりキッチン教室」を、全道各地で延べ25回開催しました。これらの食農教育活動を通じて、食や農に対する関心を高め、JA・JAバンクのサポーターを育てる取り組みを行っています。



JA 共済連北海道



JA共済連北海道は、「2019年度 JA共済全道小・中学生交通安全ポスターコンクール」の表彰式を10月26日にANAクラウンプラザホテル札幌にて開催しました。46回目を迎える同コンクールは、全道より3,296点の応募をいただき、その中から金賞9作品が選出され受賞されたみなさんが表彰されました。

今回受賞された作品は、さっぽろ雪まつり会場・道庁ホールでの展示等が予定されています。



ホクレン



ホクレンと北海道米販売拡大委員会は10月17日、北海道産の2019年新米発表会を東京都内で開きました。発表会には鈴木直道・北海道知事とCMキャラクターを務めるタレントのマツコ・デラックスさんらが出席しました。ホクレン内田和幸会長より「今年は、ご満足いただけるおいしい北海道米をお届けできます」とアピールし、マツコさんはステージ上で新米を試食し、「実は一番好きなのがこの『ふっくらんこ』」と楽しいトークで盛り上がりしました。



JA 北海道厚生連



10月23日、ホテルポールスター札幌において、令和元年度北海道福祉のまちづくり賞の表彰式が行われ、JA北海道厚生連特別養護老人ホーム摩周が公共的施設部門の「北海道福祉まちづくり賞」を受賞しました。この賞は福祉的配慮に優れた公共的施設等におくられるもので、福祉・建築・市民活動等の有識者で構成する会にて審査が行われ表彰が行われました。この賞を機に施設としての充実だけでなく、入居者の皆さんの生活の充実に向けて更なる向上を目指したいと思います。

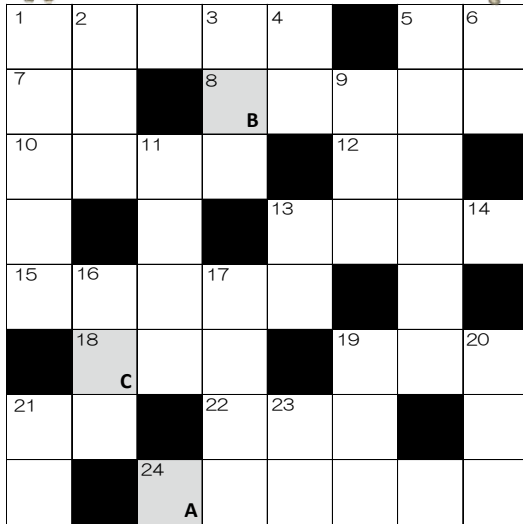


JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容をご紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。



クロスワードクイズ

新年特別問題



A	B	C
---	---	---

11月号の正解は
「セキハン」でした。

正解者の中から抽選で3名が選ばれました。

雨 竜 町 源 勝 様
北 竜 町 杉本 育子 様
幌加内町 佐藤 末子 様

【タテのカギ】

- くじの当たり、⇒はすれくじ
- 経済活動全般のこと
- したたり落ちる液体の粒
- 〇〇は熱いうちに打て
- 外国からの輸入が急増したときに影響を受ける国内産業を救済するためにとられる緊急輸入制限措置
- 肉食性で水中生活に適応した爬虫類の総称、クロコダイルやアリゲーターはその一種
- 大学や短期大学などを既に卒業し、正規職員としての職歴がない求職者
- 山茶花
- 冬の次に来る季節
- 月の出ていない真っ暗な夜
- 酢飯を海苔で巻き、その上にウニやイクラなどを乗せた寿司、〇〇〇〇巻き
- 寺院を表す地図記号にも使われる「ㄱ」と書く漢字の訓読み、若者言葉「マジㄱ」が流行語に
- 本土・本島から離れている島
- 2019年4月より鈴木直道氏が北海道の〇〇に
- 情報量の単位、キロ<〇〇<ギガ<テラ

【ヨコのカギ】

- お正月の定番の挨拶「〇〇〇〇〇おめでとう」
- めんどろを見たり人のために尽力したりすること、「昨年は大変お〇〇になりました」
- 七福神の石柱である恵比寿が左脇に抱えている魚
- ウリ科の野菜、見た目はキュウリに似ているが実際はカボチャの仲間
- 力をこめて作った作品
- 父母の父親、⇒祖母
- 会合などに初めて参加した人、新顔とも
- 熱帯の密林地帯
- 鏡もちの上にのせる果物
- 建築物の内部における部屋や区画の配置
- 和紙で作られた折り紙、〇〇紙
- 石ノ森章太郎原作の特撮ヒーロー、「〇〇〇ライダー」、現在も同シリーズとして「〇〇〇ライダーゼロワン」が放送中
- 新年（お正月）に届くよう送られる郵便ハガキやカードを用いた挨拶状

応募方法

正解者の中から抽選で3名様に農協全国商品券をプレゼント。ホームページ応募フォーム・ハガキ・FAXで①クイズの答え②住所、氏名、年齢③身近な出来事④農協だよりに対するご意見ご要望を記入の上ご応募下さい。締切は1月31日消印有効で当選者とクイズの答えは3月号に掲載します。

【送り先】〒074-0022 深川市北光町1丁目10番10号

JAきたそらち総合企画室企画広報課

FAXの場合は 0164-22-8611

【ホームページ応募フォーム】URL: http://www.ja-kitasorachi.com/application_form/

※ご本人以外による応募は抽選の対象外とさせていただきます。

十二月俳句

●雨電俳句会

ダンボール開けばぱつと柿明り
窓たたく木枯らしせかす仕舞風呂
初蕎麦に膝割り込んでしまいいけり
口漱ぐ鏡の中に秋思あり
カラス来て初雪の田を汚しけり
なんとなく早歩きして冬入日
サッカーの名誉の傷が膝にあり

有田 茉莉
大林アヤ子
北川 満江
小山 邦男
松木 五月
宮武めぐみ
吉見サヨ子

●「道」俳句会 北竜支部

ロズさむ詩あり雪の帳にも
室咲きの百を手入れの小半日
しばらくは今を願いてポインセチア
スコップの土掻き落し根雪待つ
足跡は一人暮らしの初の雪
回転扉おせば冬日が裏返る
焚火する青年の頬赤々と
あわてめく冬將軍の口笛に

山本 玲子
阿部れい子
吉尾 広子
山岸 正俊
山下 好晴
佐光久美子
杉本 隆文
高田 紀子

●土筆俳句会

豆電球変へても点かぬ十二月
一昨日と同じ話や冬うらら
着膨れてせんべい一枚もてあまし
冬の放つ光に汚れなし
十二月の同じ忌日や父と祖母
白雪の降り積む古屋や祖父の城
一人居の聖夜トナカイ寄らず行く

高尾美津子
池田 美知
坂本 朱実
引地紀代子
南川富美子
佐藤 英三
小橋 厚子

第12回理事会〈令和元年11月29日開催〉以下の事項について決議・承認されました

1. 関係団体等諸会議について
2. 組合員の加入脱退について
3. 10月末推定決算について
4. 財務報告及び事業実績について
5. 職員の人事について
6. 反社会的勢力等との取引状況について
7. コンプライアンス事故報告について
8. 令和元年度 第3四半期 内部統制及びリスク管理の取組状況について
9. 営農懇談会日程について
10. 役職員新年交礼会について
11. 貸出金の貸付報告について
12. 大口貸出先の概況について
13. 令和元年度「賦課金」の徴収実績について
14. 令和元年度「経営所得安定対策」交付見込額について
15. JAきたそらち雨竜支所 温湯消毒設備 導入工事に伴う入札結果について

- 議案第1号 みのり監査法人 期中監査Ⅱ結果概要報告について
- 議案第2号 令和元年度 上半期決算監査に対する回答について
- 議案第3号 出資金の持分譲渡について
- 議案第4号 農林年金に係る特例業務負担金の長期前納実施について
- 議案第5号 職員の年末手当の支給について
- 議案第6号 手形貸付金の貸出について

1. 第7次計画に係る営農懇談会資料について
 - 1) JAきたそらち変革ビジョン2030(案)について
 - 2) 第7次農業振興計画(案)について
 - 3) 第7次農協経営計画 基本方針及び各部の活動計画(案)について
2. 当面の施設整備(案)について
3. 令和2年度 営農計画書の作成について
 - 1) 令和2年度 営農計画書 米関係単価の設定について
 - 2) 令和2年度 営農計画書 畑作関係単価の設定について
 - 3) 令和2年度 営農計画書について

16. 深川穀類乾燥調製貯蔵施設 色彩選別機導入に伴う入札結果について
17. RTK-GPS基地局設置と今後の取り組みについて
18. 令和2年産からのゲタ対策の交付単価について
19. 令和2年度水稻作付意向調査の結果について
20. ホクレン水稻生産拡大に向けた省力化技術推進モデル事業について
21. 令和元年産 米集荷状況について
22. うるち米情勢、もち米情勢について
23. 平成30年産うるち米最終精算見込と令和元年産特定米穀精算見込について
24. 令和元年産 畑作物集荷状況について
25. そばの生産流通動向について
26. 令和元年産そば共計品(一般品)について
27. 畜産物の販売状況について
28. 青果・花き集荷販売実績について
29. 経済部事業実績について
30. 令和元年度営農用灯油特別対策精算について

- 議案第7号 令和元年度 クミカン精算に係る農協仮渡金の対応について
- 議案第8号 令和元年産米概算金の追加払いについて
- 議案第9号 うるち米品種別作付指標について
- 議案第10号 令和元年産大豆概算金支払等の取り組みについて
- 議案第11号 種子馬鈴薯概算金の年内支払について
- 議案第12号 職制規程の一部改正について

組合員の動き

(令和元年11月末日)

		当期首	加入	脱退	当月末
正組合員	個人	1,402	18	33	1,387
	団体	85	1	0	86
准組合員	個人	5,988	100	65	6,023
	団体	329	2	0	331
正組合員戸数		1,015	1	16	1,000



JAきたそらち太陽光発電所 発電実績

○令和元年11月実績

○累計(H30.12~R1.11)

発電電力 **20,620kWh**

発電電力 **550,062kWh**

計画対比 + 3,582kWh

計画対比 + 128,848kWh

前年対比 △ 2,411kWh

前年対比 + 28,166kWh

経済部 資材課からのお知らせ

今年も開催!!

作業衣類展示会

毎年恒例の作業衣類展示会を今年も開催します!

普段店頭には並ばない防寒長靴やヤッケ、手袋類を期間限定の展示会価格として格安で提供致します!

近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください!!

2020 2/6日7日
午前10時～午後3時

JAきたそらち

営農センター 資材店舗

※店舗入口よりお入りください



※写真は昨年開催の様子になります

★同時開催★

今年は 炭火焼鳥 他力本願 もやってくる!!



和田商事による 時計電池交換 実施!

電池交換料金表

通常電池交換	¥550 (税込)
ソーラー時計	¥3,999 (税込) ~
バンド交換	¥1,100 (税込) ~

※場合により価格が異なる可能性があります。

作業衣類展示会のお問い合わせは、経済部資材課まで
☎: 0164-26-0124

